

## 解答

問一 (すべての植物は毒を作っていて、昆虫はそのことに対応していかなければならぬ以上、) 食べられる植物を増やすよりも、特定の植物を食べ続けられるように進化する方が効率的だから。

問二 いたち (いっさ)

問三 エサであるウマノスズクサが作る毒成分を、ジャコウアゲハが自らの体内に蓄え、自分自身の身を守ることを利用している点。

問四 エサにする植物の毒を利用し自分の身を守っている点と、目立つ色をして自分が有毒であることをアピールしている点。

問五 昆虫の脱皮を促す成長ホルモンのような物質を持ち、早く害虫を成虫にさせ、害虫が葉っぱの上で過ぐす時間を短くし、葉をたくさん食べられないようにする作戦。

二

問一 「ありがとう」と言うのが当たり前になつていてのこと。

問二 いつもなら準備にできるだけ時間がかかるないようにして待つていて「ぼく」が全く準備していなかつたことを、怪訝に思つたから。

問三 「ありがとう」と言わなかつたことに気づかれてしまつたので、言わなければならない状況に追い込まれたから。

問四 弟に自分の面倒を見ると両親が言つてゐるのが聞こえ、自分が弟より下の立場であるとみなされているように思ひ、自尊心が傷ついたから。

三

- ① 模型 ② 街路樹 ③ 領域 ④ 歴然 ⑤ 善処 ⑥ 許容 ⑦ 衛星 ⑧ 拝借  
 ⑨ 無残 ⑩ 希求 ⑪ 疑「う」 ⑫ 易「しい」 ⑬ 耕「す」 ⑭ 省「く」 ⑮ 覚「める」

## 解説

一

問一 傍線①の3段落後に、「どうして、昆虫たちは、こんなにも偏食家なのだろうか。」という問題提起があるの で、その傍線部に続く段落に着目する。植物は昆虫に食べられないように毒を作り、昆虫はその毒に対応して 進化する。すると植物は新たな毒を作り出し、昆虫も進化する。このような関係を繰り返すことになるが、他 の食べられる植物を探すよりも、工夫して食べてきただ植物を食べる方が効率が良いからである。因みに、この ように一対一で進化が進んでいくことを「共進化」という。

問二 傍線③「悪知恵がはたらく」の直後の一文に「植物がせつかく作った毒を、逆に利用する悪い奴まで現れ た」とある。そこで、具体的にどのように利用するのかを直後の段落を参考にして具体的に書く必要がある。

つまり、アリストロキア酸という毒成分で身を守つてゐるウマノスズクサをジャコウアゲハが食べ、その毒素 を体内に蓄積することで、捕食者である鳥に食べられることがないようにしてゐるのである。

問五 イノコヅチという植物は昆虫の脱皮を促す成長ホルモン物質を作り出している。そのイノコヅチの葉を食べ たイモムシの成長は早く、大して体も大きくならぬうちに脱皮を繰り返し成虫になる。つまり、葉っぱの上 で過ごす幼虫の期間が短くなり、結果として葉っぱを食べられる量が少なくなるのである。

二

問一 「呼吸のようなもの」とあるので、意識せずに使用しているものである。つまり、体の不自由なテオは、他人の助けを借りなければ生活ができないのであり、何かをしてもらつた後には、礼儀正しく「ありがとう」と 言つてゐたのですね。

問二 傍線②の直前で、クリスティーヌは「ちょっと、テオ、何やつてゐるの? 準備できていないじゃない」と 言つてゐることから、普段は「準備にできるだけ時間がかかるないように」してゐるのですね。いつもと異な

る態度に、怪訝に思つてゐるのですね。

問三 あまり「ありがとう」と言わないようにしようと決意をして いたが、お世話をしてくれたシャンタルに「あら、『ありがとう』と言わないの」と言われ、「ありがとう」と言わずには済ませられる状況ではなかつたから。

問四 生まれつき両足と左手が不自由なテオは、誰かの世話にならなければ生活していけないのであり、一人前の

人間として認めてもらえないことを、ご両親の言葉から知つたからですね。